



ポリオワクチン支援活動レポート 2024.10 バヌアツ共和国

バヌアツ共和国ポリオワクチン支援活動 2024.10 活動報告

いつも古着 de ワクチンをご愛顧いただき誠にありがとうございます。

認定 NPO 法人世界の子どもにワクチンを日本委員会（以下 JCV）を通して、ポリオワクチンを寄付している支援国の 1 国「バヌアツ共和国（以下バヌアツ）」へ支援活動に行きましてので下記活動をレポートいたします。新型コロナウイルス感染症（COVID 19）の影響を受ける前は年に 2 回行われていた支援活動も海外への渡航が困難となり中止されておりました。

昨年 2023 年 3 月にラオス共和国に行くことができ、今年もバヌアツへ訪れることができました。バヌアツだけに焦点を当てると約 5 年ぶりの支援活動となります。

COVID19 は終息に向かった 2024 年の現在、バヌアツはエアバヌアツの経営破綻等を受け国の社会情勢はまだ不安定です。約 10 日間の滞在となりましたが、バヌアツの等身大の「今」をお届けいたします。

皆さまのお部屋のお片づけが世界中の笑顔を作ります、バヌアツの赤ちゃんにポリオワクチンがしっかり届いている様子をご覧ください。



【バヌアツについて】

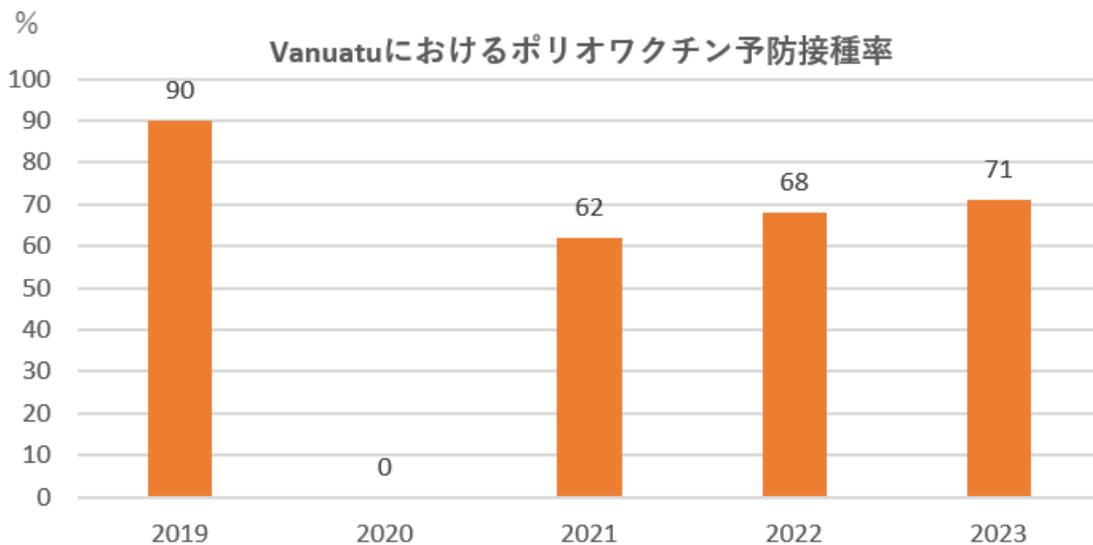
南太平洋に位置し 83 の島で形成される島国で国土は新潟県と同じくらいとなります。人口約 33 万人のうち 57% が 25 歳未満で、国民の 70% は街から離れた集落に暮らしており主な移動手段は船と飛行機です。今年 5 月のバヌアツ航空の経営破綻の影響は大きく、10 月から一部運行再開しているがまだ不安定な状況となっています。



- 【首都】 ポートビラ
- 【人口】 326,740 人 (2022 年世界銀行データ)
- 【面積】 1 万 2,190 平方キロメートル
- 【言語】 現地ビスラマ語・英語・仏語
- 【宗教】 主にキリスト教
- 【産業】 農業・観光
- 【通貨】 バツ (1 バツ = 約 1 円)

【バヌアツポリオワクチン接種率状況】

南太平洋に浮かぶ島国バヌアツは、リゾート地として知られていますが、人口の 77% は貧困状態にあります。電気が通っていない地域もまだまだ多数あります。ユニセフバヌアツのデータによると近年のワクチン接種率は下記の推移となります。



※2020 年も接種は実施されていたものの、コロナ禍の混乱により UNICEF による公式の統計データなし

2020 年についてはデータが出ておりませんが、コロナ終息後接種率は増加傾向といえます。

【古着 de ワクチン運営事務局からの参加メンバー】



- A マコ：古着 de ワクチン運営事務局 営業本部長
- B スレイレック：カンボジア古着 de ワクチン直営センター スタッフ
- C ユウスケ：古着 de ワクチン運営事務局 スタッフ
- D リンナー：カンボジア古着 de ワクチン直営センター 責任者

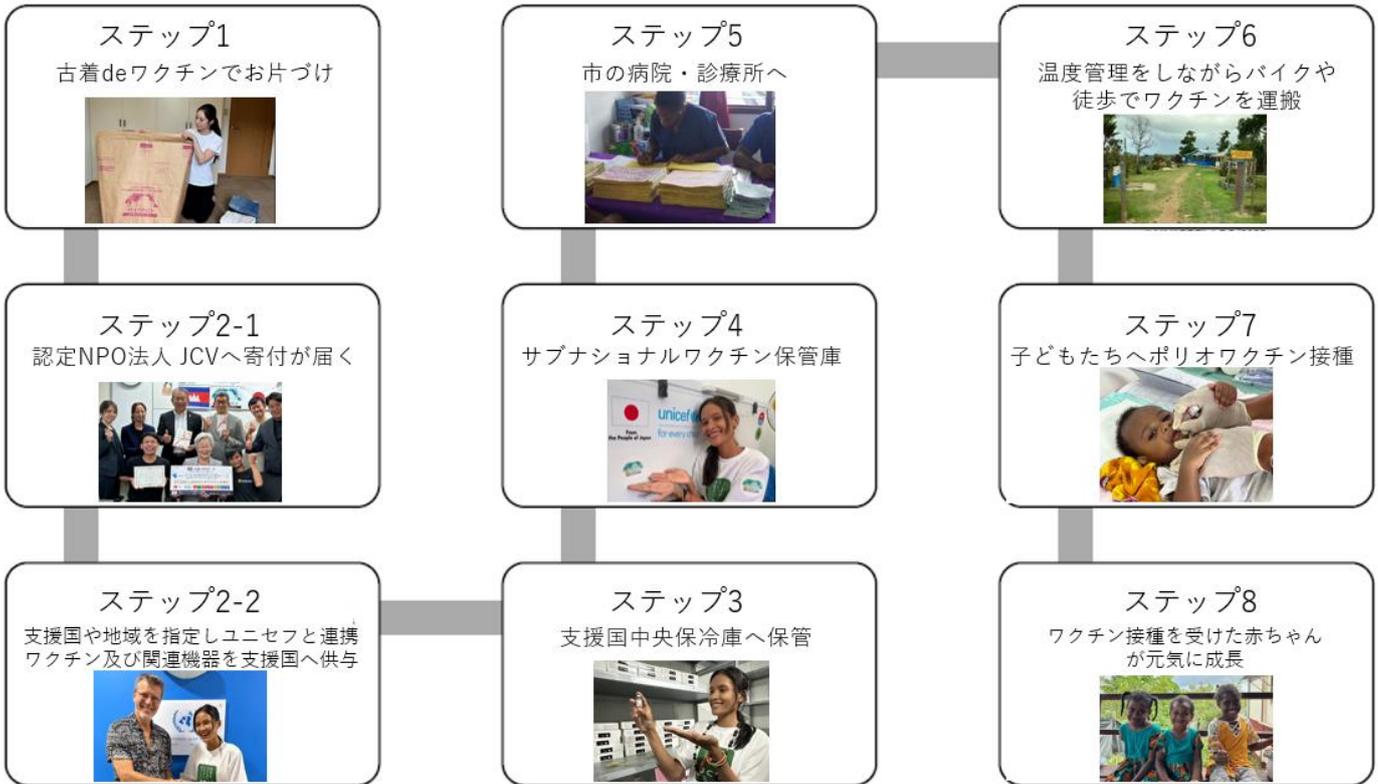
古着 de ワクチン運営事務局からは4名のスタッフが支援活動に参加しました。中でもスレイレックは、自身ポリオ障がいの後遺症に苦しみ足が不自由（足の裏がつけずに足の甲で歩く歩行方法）な生活を送っております。カンボジア古着 de ワクチンセンターで働くことで自立を目指し、将来英語の先生になることを目標にしている21歳の女性です。カンボジア古着 de ワクチンセンターのお店のコンセプトである「支援される側が支援する側に」の体現として参加を立候補しました。自分と同じ苦しみを味わう子供たちが1人でもいなくなるようにという願いを込め強い思いをもってポリオワクチン接種の現場に向かいました。彼女の支援活動での活躍にもご注目ください。

【支援活動訪問県の位置関係と概要】



- Day1.2:オーストラリアブリスベンを經由し首都ポートビラへ到着
- Day3: エファテ島西部 マンガリリュウ村小学校訪問
- Day4: ポートビラ市内 UNICEF バヌアツ事務所・ビラ中央病院訪問
- Day5: エファテ島の離島 レレパ島アマウリ診療所訪問
- Day6: ポートビラ市内 MCH クリニック訪問
- Day7: ペペヨ村伝統生活様式体験
- Day8.9:オーストラリアブリスベン経由で帰国

【古着 de ワクチンがポリオワクチンに換わるまでの流れ】



上記ステップの通り、皆様の古着 de ワクチンを通してお部屋のお片づけが、開発途上国の子どもたちの命と健康を守る経口ポリオワクチンに生まれ変わります。

【保健省 VDI（予防接種計画課）事務所/中央保冷庫/ビラ中央病院訪問】（表ステップ3）
2024年10月8日（火）

保健省の敷地内にある中央保冷庫は、3カ月前に大型のウォークイン保冷庫が壊れてしまったため、現在入れ替え工事中でしたが一部、中を案内いただきました。

冷蔵庫の温度管理などもしっかりされており、各病院へ配布するための母子手帳もたくさん保管されていました。



バヌアツで一番大きな病院「ビラ中央病院」にも訪問しました。(表ステップ5)

産婦人科のドクターで院長のエロインさんが案内してくださいました。病院は1970年代に建てられており155床、医師50名看護師100名その他技師や事務員など総勢350名が働いているということです。しかし院長によると医師は80%、看護師は50%不足している深刻な人手不足状況ということでした。バヌアツ国内に医大はなくコロナ渦の中で看護学校も閉鎖してしまいました。

日本の支援(ODA)で最新の医療機器も一部導入されていました。院長からは「継続的にワクチン支援をしてくださる日本のみなさまに心からの感謝と敬意をお伝えしたい」というお言葉もいただいております。



【ユニセフバヌアツ事務所訪問】(表ステップ2-2)

ワクチンをどこの地域にどれくらい送るかというのは各国のユニセフと協議を行って決定しています。バヌアツの抱える問題や現状を踏まえて、ユニセフバヌアツ代表のデュペアさんがお話をしてくださいました。



JCVがワクチンの他に、保冷库や出張ワクチン接種のサポートもしていることで、3つのサイクロンの被害を受けた2023年でもポリオや5価ワクチンの接種率が70%台を達成することができたとの成果を報告されていました。

終わりには、代表デュペアさんから「JCVが2011年から継続支援していることにより、バヌアツのワクチン接種の改善に長期目線で取り組むことができ本当に助かっている」との言葉をいただきました。

【エファテ島西部 マンガリリュウ村小学校訪問】(表ステップ8)

2024年10月7日(月)

市内中心部から車で1時間ほど走ったエファテ島西部の村マンガリリュウのロアオ小学校の子どもたちに会いに行きました。行くまでの道はアスファルト舗装が完璧ではなくガタガタ道でした。

幼稚園児～中学校3年生まで全校生徒約90名の学校でしたが、一か月半続いた教師のストライキ(給与問題)が終わった直後で、授業がほとんど行われておらず生徒たちも少なかったです。そんな中でも学校に来ていた子どもたちは笑顔いっぱい元気に歓迎してくれました。

個人的主観も入ってしまいますが、大人の都合で教育が受けられない子ども達が令和のこの時代にも世界各国で存在するのだと思うと、切ない気持ちとなんとも言えない感情を覚えました。



学校の裏山の畑で収穫できるキャッサバやトマト、島キャベツなども紹介してもらいました。バヌアツで採れる野菜は全て100%オーガニックです！

その後、村のチーフモロモロさんのお家に招待いただきバヌアツの伝統料理「シンゴーロ」を一緒に作っていただきました。味はほんのり甘くタピオカのモチモチ食感でした。女性は

調理担当、男性は力仕事とはっきり仕事が分担されており、「昔の日本もこのような感覚（女性は家で家事！）だったのかな～」と想像してしまいました。



自給自足が基本となるため、村の子どもはみんなココナツの木のでっぺんまでスイスイ登れちゃいます♪天然のココナツウォーターを普段から飲んでいるから!?みんなお肌もスベスベでうらやましかったです。

最後に参加者全員とチーフモロモロと記念撮影をして村をあとにしました。



【離島レレパ島 出張ワクチン接種会場訪問】(表ステップ 6.7)

2024年10月9日(水)

上記マンガリリュウ村をさらに奥地に進み、エファテ島の離島にあたるレレパ島、アマウリ診療所を訪問しました。

道はないので、ボートで移動。この日は波も穏やかで青空が広がり海はエメラルドグリーンに輝いていました。





ポリオワクチン支援活動レポート 2024.10

バヌアツ共和国

砂浜や海岸沿い・崖道は舗装されていない為スレイレックにとっては想像以上に過酷な道のりとなりました。しかし、「ワクチン接種を自分でやりたい」「自分と同じポリオの後遺症で苦しむ子どもが一人でもいなくなるように」という強い気持ちをもって、岩場や崖道を一歩一歩進みたどり着きました。



他の参加者の方や私に気を遣わせないようになのか、支援活動期間中彼女の口から「足が痛い」「疲れた」等ネガティブな言葉は一度も聞きませんでした。大丈夫？と聞かれると「全然大丈夫だから気にしないでね！毎回声をかけさせてごめんね」と笑顔で手を振ります。うまく伝えられないですがこの支援活動に対する想い、これまでの彼女自身の人生を照らし合わせたかのような強い信念みたいなものを感じました。

レレバ島には約700人が暮らし、2歳未満の子ども約20名に定期ワクチン接種を行なっているといわれています。島には電気が通っていないため、ワクチンはソーラー保冷庫で保管されていました。天候によっては十分発電できないこともあるため、保冷庫にはワクチンを入れる部分を囲うように保冷剤4個を差し込めるよう設計、これにより5日間は電気がなくても問題なくワクチンが保冷できるということでした。温度管理もしっかり記載されており状態良く保存されていました。島の保冷庫にも古着deワクチンロゴが貼られています。



ポリオワクチン支援活動レポート 2024.10
バヌアツ共和国

この日、待合スペースには 20 名ほどの親子がワクチン接種に来ていました。スレイレックは、お母さんに挨拶をしてから赤ちゃんに経口ポリオワクチン（スポイトから 2 滴）を摂取させてもらいました。赤ちゃんは泣かず笑顔で受け入れてくれていました。スレイレックに初めてのワクチン接種にどう感じたか聞いてみると、少し考えて「元気に育ってね！」とだけ願って接種したよ。と笑顔で答えていました。帰りも崖道・岩場でしたが、行きよりなんだか軽快だった気がします。



【エファテ島北部エムワ村／出張ワクチン接種（アウトリーチ）会場】

ボートでエファテ島へ戻り、そこから車で30分ほどかけて北部地域のエムワ村へ移動しました。出張ワクチン接種会場となっている村のコミュニティホールを訪問しこちらでもスレイレックは赤ちゃんにワクチン接種をさせていただきました。母子手帳にもサインをさせていただき貴重な経験となりました。



【エラコア診療所／出張ワクチン接種（アウトリーチ）会場】

首都から車で20分ほど進んだところにあるエラコア診療所に訪問しました。道路のアスファルト舗装はされておらずデコボコ道を進んだ先に小さな診療所がみえてきます。





ポリオワクチン支援活動レポート 2024.10

バヌアツ共和国

小さな診療所でしたが、3名の看護師・助産師・ボランティアスタッフで村の150人ほどの赤ちゃんの予防接種を管理しているそうです。

この日は私もポリオワクチン接種を体験させていただきました。経口ワクチンを赤ちゃんの口にポトンと2滴。時間にすると2秒。しかしこの2滴で助かる命があり将来元気に過ごすことができると思うととても感慨深い経験となりました。

赤ちゃんのお母さんも最初は不安そうに見守ってくれていましたが、終わるとビクスマイルと共に「ありがとう！母子手帳のサインいいね！」と言葉をくれました。

私たちがこの支援活動ができるのは全て古着 de ワクチンの趣旨にご賛同いただき、キットをご購入いただいているお客様のおかげです。しっかりと開発途上国の赤ちゃんに届いていることをこの場を借りてご報告申し上げます。いつも応援いただき感謝申し上げます。





ポリオワクチン支援活動レポート 2024.10
バヌアツ共和国

【結びに】

約5年ぶりのバヌアツ国支援活動となりました。最後まで活動報告をご覧いただき誠にありがとうございます。私にとってもバヌアツ国への支援活動は初めての経験となりました。人口の7割が貧困層ということでしたが、道路ですれ違う人はみんな笑顔で手を振ってくれますし、子ども達は元気にはしゃいでいました。国の社会情勢や格差問題、教育問題等はまだまだありますが、出会ったみなさんの心はとても豊かであると感じました。

幸せの基準や価値観の基準の違い等、考えさせられるシーンにも沢山触れることができ、貴重な経験となりました。

また、カンボジア直営センターのスタッフ、スレイレックが共に支援活動に参加できたことはとても意義のあることだと考えております。「自分と同じポリオの後遺症で苦しむ子どもが一人でも少なくなるように」そしてカンボジア直営センターのコンセプトである「支援される側が支援する側に」の一つの体現であり、大きな一歩を踏み出すことができたと思います。

古着 de ワクチンは2010年にサービスを開始し、今年で14年目を迎えます。

今年の夏にはお客様からのご要望にお応えしサイズを3種類展開にリニューアルいたしました。さらに、能登半島地震復旧・復興応援パッケージの販売も始めることで支援の在り方や考え方「購入を通して未来への投資（循環型社会の創造）」を広めていきたい所存でございます。いつも応援いただいておりますお客様に心から感謝申し上げます。

日本リユースシステム株式会社
古着 de ワクチン運営事務局
営業本部長 辻本真子



【おまけ】スレイレックのインタビュー



今回、バヌアツ国支援活動に参加してどう感じた？



自分が支援活動に参加するスタッフに選ばれたと知った時、予想すらしていなかったので、本当に嬉しかったです。職場ですっと子ども達の写真を見ていたので、「いつか自分も参加することができたら」と想像していました。バヌアツでは出会った皆さんが笑顔で迎えてくれたので、本当に嬉しかったです。

村の小学生たちとたくさん交流したけど、どうだった？



今日遠方にある村の小学校訪問しました。子どもたちに文房具をプレゼントすると、たくさんの笑顔をお返ししてくれ、私自身ますます幸せな気持ちになりました。

明日赤ちゃんにポリオワクチン接種を行います、楽しみですか？



明日は待ちにまったワクチン接種支援の日ですが、子どもたちを笑顔にするために私ができることをしてあげたい。という気持ちです。ワクチン接種は子どもたちを病気から守ってくれますし、笑顔や将来を守ってくれますので、明日のためにしっかり気持ちを準備して頑張りたいと思います。

日本大使が古着deワクチンのことをご存じでしたが、それを聞いてどう感じましたか？



日本大使がどれほどお偉い方なのか想像もつきませんが、「古着deワクチンのリポーターだよ」と聞いて、とても嬉しい気持ちになりました。

昨日今日と赤ちゃんにポリオワクチン接種を
実際経験してどうだった？



今回、バヌアツの子どもたちに私自身がワクチン接種を行うことができました。これまではポリオワクチンについてインターネットで見たり人から聞いたりするのみで、自分自身で行う機会などありませんでした。だからこそこの特別な機会に感動しました。このワクチン接種により世界中の子どもたちの命と健康が守られ、そして私のようなポリオの後遺症を持つことがないように保護されます。ワクチン接種によって私が経験したような障がいを持つことなく、どこに行くにも不自由しない将来が約束されることを本当に嬉しく思います。

初めてバヌアツ国に来て、バヌアツの人々に対する印象はどうか？



バヌアツに来るのは初めてですが、皆さんフレンドリーで、親切です。私たちを見かけると、皆さんいつも挨拶してくださって、また訪れたいなと思いました。バヌアツの皆さんの所を訪れると、皆さんいつもプレゼントを用意してくださるんです。たとえどれだけ貧しくても、小さなお菓子をくださり、親切や寛大な心を示してくださいました。



ポリオワクチン支援活動レポート 2024.10 バヌアツ共和国

日本で古着deワクチンをご利用いただいている
お客様にお伝えしたいことはありますか？



日本のお客様はご自身の貴重なお金を費やして古着deワクチンを購入し、且つ大切だったお洋服もお送りいただき本当に感謝しています。
キットの購入を通して世界中の子どもたちの将来を守るポリオワクチンを寄付し、カンボジアの障がいを持った私たちスタッフのためにも仕事の機会を与えていただき本当にありがとうございます。

～将来の夢について～

ユニセフ事務所では説明が英語でなされていたので、3割ほどしか理解できずとても悔しかったです。私は今カンボジアの学校で英語を勉強していますが、英語をもっと頑張りたいと思いました。今回の体験を通して、外国の方にその国の言語で挨拶したり、会話したりできると良いなと感じました。カンボジアに戻ったらより一層英語の勉強に励みたいです。そして英語だけでなく一生懸命にその他の外国語も勉強したいと思いました。

インタビュー動画はこちらから

